

IEA 石油市場レポートの概要（2016年6月14日公表）
（代表部仮訳のため、正確にはIEAのホームページを参照）

1. 原油価格は、ナイジェリアとカナダの継続的な供給減少や、米国の着実な生産減少により上昇し、6月に51.1ドル/バレルを超える2016年の最高値となった。5月までに、ブレントとWTIの月間平均価格が3ヶ月連続で上昇した。
2. OPEC加盟国とOPEC非加盟国の供給減少により、5月の国際的な石油供給は80万バレル/日分減少した。9,540万バレル/日という供給量は、前年より59万バレル/日少なく、2013年初頭以降初の大きな下落である。OPEC非加盟国の供給は、2016年に90万バレル/日減少した後、2017年に20万バレル/日の増加という控えめな回復が期待される。
3. 5月のOPECの原油供給は、石油部門の操業妨害による大幅な減少がナイジェリアで発生したことにより中東での生産増が打ち消されたため、11万バレル/日減少し、3,261万バレル/日となっている。イランは、70万バレル/日の増加が予想され、OPECで今年の増産ペースが最も速い供給源として明確に浮かび上がってきている。
4. 2016年第1四半期における世界の石油需要の伸びが160万バレル/日に上方修正されており、2016年では130万バレル/日の増加となるだろう。2017年も同じ増加率が見込まれており、世界的な需要は9,740万バレル/日に到達するだろう。この2年間に予想される需要増のほとんどは非OECD諸国によるものになるだろう。その増加率は、主に比較的低い原油価格のおかげで、これまでの傾向を少しだけ上回っている。
5. OECD諸国における商業在庫は、3月の水準から1,440万バレル上積みされ、4月末には30.65億バレルに達した（前年比で2.22億バレルもの顕著な増加）。米国のドライブシーズンが始まることに伴い、OECD諸国のガソリン在庫は昨年を上回っている。中国でも同じ状況になっている。
6. 2016年第1四半期における精製施設は深刻化する供給減少に苦しんでいる。精製業者が2015年から延期していたメンテナンスに漸く取り組んでいるため、処理能力は前年比でほぼ同じになっている。2016年第3四半期の季節変動は、前の四半期と比べて約230万バレル/日の増加となり、過去最大になることが見込まれる。